

「桐蔭横浜大学の開き直り」と批評する前に、今日の高等教育施策における教学マネジメント体制をしっかりと勉強してくれませんか！

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

あるウェブ記事より

もはや大学入学者の半分以上が「推薦」という衝撃…大学入試は「12月で終わるもの」になった

神奈川県にある桐蔭横浜大学の「開き直り」っぷりが、大学関係者の間で話題を呼んでいる。

「昨年4月に同大に入学した学生は570人ですが、そのうち一般選抜で合格したのはわずか33人、割合にして約5.8%でした。2024年度の入試では一般選抜の割合を0%にして、全入学者を学力試験以外の方法で選抜するのが目標のようです」

実は、今年度に大学に入学した全国の受験生約61万人のうち一般選抜、すなわち学力試験をパスして入ったのは半分以下。約51%にあたる31万人が、「学校推薦型選抜」と「総合型選抜」によって入学しているのだ。・・・（続く）

2025年2月5日

桐蔭横浜大学はAPに基づく高校からの「接続教育」を目指す

①三つの方針（ポリシー）

- DP（ディプロマ・ポリシー）
- CP（カリキュラム・ポリシー）
- AP（アドミッションポリシー）

→教学マネジメント体制（2008年～）

②学力の拡張を真正面から捉える（学士力, 2008）

- 知識・理解
- 汎用的技能
- 態度・志向性
- 総合的な学習経験と創造的思考力



学校法人
桐蔭学園

桐蔭横浜大学

Toin University of Yokohama

【学部・研究科と在籍学生数】

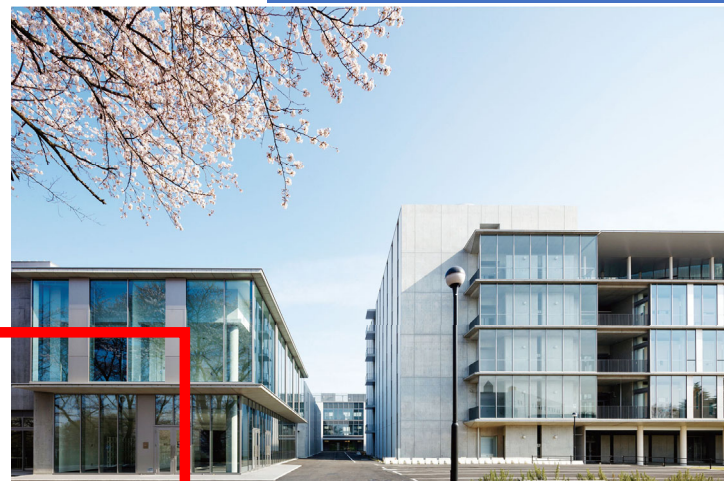
法学部、医用工学部、スポーツ科学部、現代教養学環
3研究科

【大学のミッション】

- 分厚い中間層の学生の学びと成長に全力を尽くす
- 地域のWellbeingに寄与する

【大学の特徴】

- 専門教育タコつぼ化しない学部横断的な学びで実践的力を育成
- 入学後、さまざまな経験を通してやりたいことを見つけ、自らのキャリア意識を築く育成型
- 地域をエリアキャンパスとして見立て、フィールドワーク中心の実践と理論の往還的学習



▶ ユニバーシティ・ポリシー

桐蔭横浜大学は、すべての学位プログラムにおいて、深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し、主体的に社会と関わり、その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで、社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成します。



GP事業から教学マネジメント体制へ

- 2003年 特色ある大学教育支援プログラム（通称「特色GP」
Good Practice

※現代GP、教育GPとして発展

- 2005年 中教審『将来像答申』（2005年）
-

- 2008年 中教審『学士課程答申』（2008年）

※3つのポリシー（DP・AP・CP）に基づく教学経営

- 2012年 中教審『質的転換答申』（2012年）

※教学経営 → 教学マネジメント

- 2017年 3つのポリシーの策定・講評の義務化（学校教育法施行規則改正）

- 2018年 中教審『グランドデザイン答申』（2018年）

※3つのポリシー → 3つの方針

※『教学マネジメント指針』（2020年）

(主催)溝上研究室・リアセックキャリア総合研究所

第3回教学マネジメント実践事例セミナー

(2022年11月4日)

(予習動画)

11/4セミナーでより良く学ぶための基礎知識
教学マネジメント・学習パラダイム・リカレント教育(リスキリング)

溝上慎一(桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授)



TOIN 6を身につける3つのACTION

カリキュラム
(授業)

CANDLEプログラム
(準正課)

クラブ・サークル
(正課外)

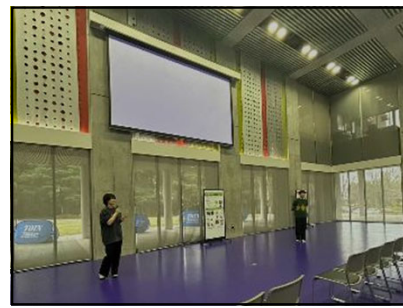


授業やゼミでは学べない
「リアルな現場」で学ぶ



入学前教育

CANDLEプログラム (準正課)



アスリートの文部両道を推進する正課外学習プログラム

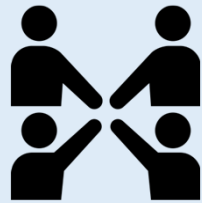
桐蔭横浜大学アスレティックデパートメント

TOIN 6を身につけるACTIONの1つである正課外活動をマネジメントする「桐蔭横浜大学アスレティックデパートメント」を発足し、部活動を本学の教育の一環に位置づけ、部活動も大学授業も双方に真摯に取り組む文部両道プログラムを推進しています。また地域に根づく大学として、スポーツや健康に関するイベント等を通じて、地域住民のWellbeingを高めていくことで、地域に愛され、地域から応援される大学発地域一体型の組織を目指します。

学生が伸びる3つの環境

部活動

競技力の向上はもちろん、学生同士、学生と指導者間の切磋琢磨を通してTOIN 6を身に付けます。



授業

アスリート・イン・ソサエティは、社会とスポーツのあり方を深く考えることを通じて、人間として、社会人として成長することを狙いとしています。



社会貢献

大学スポーツは地域を含めた様々なコミュニティから支援を受けて活動しています。支援されるだけでなく、地域への貢献により、支えあう関係を目指します。



トップスポーツ最前線から学ぶスポーツビジネス戦略

アスリート・イン・ソサエティでは、特別講師を招聘し、卒業後もアスリートとして、またはスポーツに関わる様々な社会で活躍できるような授業を展開

特別講師：日本テレビGH執行役員 岡部氏、wowow会長 田中氏、元Jリーグチェアマン 村井氏 ほか





学校法人
桐蔭学園

桐蔭横浜大学

Toin University of Yokohama

【学部・研究科と在籍学生数】

法学部、医用工学部、スポーツ科学部、現代教養学環
3 研究科

【大学のミッション】

- 分厚い中間層の学生の学びと成長に全力を尽くす
- 地域のWellbeingに寄与する

【大学の特徴】

- 専門教育タコつぼ化しない学部横断的な学びで実践的力を育成
- 入学後、さまざまな経験を通してやりたいことを見つけ、自らのキャリア意識を築く育成型
- 地域をエリアキャンパスとして見立て、フィールドワーク中心の実践と理論の往還的学習



▶ ユニバーシティ・ポリシー

桐蔭横浜大学は、すべての学位プログラムにおいて、深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し、主体的に社会と関わり、その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで、社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成します。



ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

